

こんな人を  
待っています!

- 起業に興味がある人
- 視野を広げたい人
- 学生生活を有意義に過ごしたい人

2020年11月に河原町御池南東角にオープンした『QUESTION』ビルの5階には、認定NPO法人 **グローバル人材開発センター**が運営する学生が主役のフロア『Students Lab』があります。学生が、QUESTIONを利用する起業家や社会人と触れ合うことで、自らの将来について考えを深めたり、就職・起業意欲を高めるなど、**多様な選択肢を持てるようサポート**しています。また、訪れた学生同士を繋ぐ機会も設けることで、互いに刺激し合える環境を提供しています。



企業から寄せられた経営課題に対して学生が一つのチームとなり、解決策を提案する様子。



学校という垣根をこえて出会った学生同士が、カードゲームを通じてSDGsへの学びを深める様子。

**GLOBAL**

代表理事  
ゆきもと さや  
行元 沙弥さん



## グローバル人材開発センターって?

地域経済・社会の持続的な発展に情熱を注ぎ活躍するグローバルな人材を育てていきたい。そのような想いに共感する**京都の大学や経済界、行政機関等がタッグを組み、設立された認定NPO法人**です!

Students Labのご利用には、**会員登録(無料)**が必要です!



## 利用者の学生の声

# Students Labで視野が広がりました！



京都外国語大学 在学  
みやたけ まなみ  
宮武 愛海 様

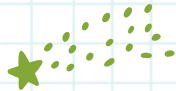
### ラボは、私の“居場所”です。

2020年11月に初めてラボを訪れました。最初は“一人で集中して作業できる場所”として利用していましたが、いつでも相談できる大人がそばにいる“安心感”はとても居心地が良く、次第にラボは私の居場所となりました。フラットに話せる空気感も大好きです。



### 新しい出会いを与えてくれました。

私は伝統産業や服飾産業の製作過程で出る廃棄物を再利用してアクセサリーを製作する『sumpai』というブランドを運営しています。そんな私にラボのスタッフさんは、アフリカの伝統布と京都の染色技術を融合することで、アフリカの貧困問題と伝統産業の後継者不足の解決を目指す『AFURIKA DOGS』で働く方を紹介してくださいました。その方もラボを利用する学生であり、「伝統産業を若い世代に届けたい」という点で意気投合し、アクセサリーの元となるハギレを提供いただきました。



### 一人で悩まず、一度訪れてほしいです。

私のように起業に興味がある学生だけでなく、卒業後の進路など、とにかく悩みを抱えている方は一度ラボを訪れてほしいですね。ラボは、色んな人と話せる・意見が聞ける、みんなの体験を共有してもらえる場です。私もここに来て視野が広がりました。また、ラボのスタッフさんだけでなく、QUESTIONのコミュニティマネージャーに相談できるのも良いところです。



sumpai×AFURIKA DOGS  
染色職人が試行錯誤を重ねて  
作り上げたカラフルな彩繻染め  
を使用したピアス

Students Labで  
お待ちしております！



認定NPO法人  
グローバル人材開発センター  
コーディネーター  
やまだ ひら  
山田 栞さん

### 学生の“心の拠り所”を目指して。

Students Labの活動を通じて、宮武様の事業をサポートでき、大変嬉しく思います。“問い”を持って来ていただければ何かが起こるかもしれない。それが共創空間『QUESTION』であり、中でもStudents Labは、これからの社会を担う学生が新しい価値観や視点と触れ合うことで、何か未来へつながるものを見つけられる、そんな場所だと思っています。これからも学生の問いに寄り添い、“心の拠り所”と感じていただけるように取り組んでまいります！



### チャレンジを応援！それがQUESTIONです！

宮武様から「QUESTIONでイベントがしたいです！」との相談を受け、開催する上で必要な行政への許可申請や会場の設営をお手伝いさせていただきました。イベント開催にあたり、報道機関・行政の方との交渉、ポスター・Webページの作成など山のようにあったタスクをクリアしていく宮武様を見て、非常に胸が熱くなりました。これからもQUESTIONは、学生のチャレンジを応援します！



QUESTION1階でセレクトショップ  
イベント『mono-gatari』を開催！  
(2021年8月)



QUESTION  
副館長  
あらお もとひこ  
荒尾 元彦



# お金の教育を通じて ゆたかな社会を育む

地域の住民が気軽に意見を発信し、誰もがアイデアの実現に向けて挑戦できる居場所づくりを目指し活動されている『ニジノタネプロジェクト』の五十嵐様と協働し、当金庫の職員がセミナーを開催した実例をご紹介します。

## セミナー開催までのストーリー



五十嵐様は、『ニジノタネプロジェクト』の活動の一環として、地域の住民の声を聞くための茶話会を開催されていた。その中で「**コロナ禍で子供たちの学びの機会が減ってしまうこんな時代だからこそ、何か体験の場を作ってあげたい**」という声が上がった。その声を実現すべく五十嵐様は、普段から親しくしていた常盤支店の寺内に何か一緒にできないかと相談された。

寺内は五十嵐様から相談を受け、**地域の子供たちに向けたお金のセミナーを企画**し、本部職員であるライフプランアドバイザー(LPA)とともに開催した。



五十嵐 光江様

2020年9月に発足した『ニジノタネプロジェクト』の代表。右京区広沢学区で活動中。



## 大人向けセミナーを担当

くらしのサポート部LPA(現所属:本店) 鹿山 真依子

子供たちにお金の大切さを伝えるにあたり、**まずは五十嵐様たちにセミナーのイメージを掴んでいただきたいと考え、大人向けに開催**しました。参加者様の投資経験に合わせた内容で行い、「子供たちのレベルにも合わせたお金の話を、是非してもらいたいです!」といった反響がありました。



投資に対するイメージが変わりました!



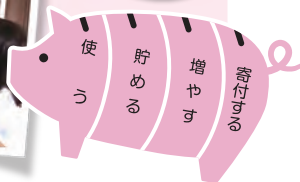
## 子供向けセミナーを担当

くらしのサポート部LPA 中嶋 恭子

続いて、子供たちにより関心を持っていただけるよう、**クイズを取り入れ、お金の大切さを楽しく学べる内容**にしました。緊張しながらも、自分の意見をきちんと発表する子供たちの姿に頼もしさを感じましたし、これからも**色々な体験を通じて学びやアイデアを深めていって欲しい**と思いました。



貯金箱を4つに分けてお金の使い道を表現!



## Message



## 『ニジノタネプロジェクト』の皆様より

今回のセミナーを通じて、**お金について学ぶことは自分のしあわせの軸を考えることにつながる**と感じ、子供たちにもこの学びを大切にしたいと強く思いました。今後は、現在企画中のお店屋さん体験を通じ、**お金の大切さをより実感してもらおう**予定です。子供たちに「**自分も一歩踏み出してみよう**」という「挑戦する力」を育む場を与えられるように、引き続き頑張ります!

## 常盤支店 寺内 結香より

お客様のしあわせづくりをサポートする私たちの仕事も、**地域のために活動されている五十嵐様の想いと通じるところがあったため**、ぜひ何かお手伝いできないかと思い、セミナーを開催しました。これからも五十嵐様の活動を支援していきます!



伝統と文化を支える

# 地域の職人 一問一答

歴史と文化に育まれた街、京都。  
当金庫は、地域に息づく文化・技術を伝え、伝統を守る事業者の皆様を応援しています。



## 株式会社 鳥羽屋 様



代表取締役社長 小篠 敏之 様

### Q.事業内容を教えてください。

江戸時代後期に創業。当初は伏見下鳥羽で染物業を営んでいましたが、6代目の時に上京区に拠点を移し、邦楽器絃の製造業に転換しました。現在私で10代目となり、三味線・箏・琵琶・沖縄三線など、**蚕の生糸を用いた絃を200種類以上製造**しています。2015年には**国の無形文化財選定保存技術保持者に指定**いただきました。

### Q.事業にかける社長様の信念は？

今では、**邦楽器絃を取り扱う事業者は日本全国で6社のみ**（京都1社、滋賀3社、関東2社）となりました。中でも**雅楽の絃は弊社が唯一の製造業者**であり、そういった誇りや数々の想いを糸に撚り込み、事業を行っております。古くから存在する邦楽器の絃を後世に伝えていくためにも、出来る限り続けていきたい、そう思っています。



▲三味線と三味線絃



▲絃製造における生糸の伸長工程

株式会社  
鳥羽屋 様 HP ▶



## きせる専門店 煙管竹商 谷川清次郎商店 様

### Q.事業内容を教えてください。

江戸時代中期に創業。当時は、きせるの羅宇の製造・卸売を展開していました。きせるとは大きく**雁首・火皿、羅宇、吸口**の3部で構成されています。しかし、各部品を製造する職人は徐々にいなくなり、また“元締め”と呼ばれるきせるの卸売業者が撤退したことから、現在は羅宇だけでなく雁首・火皿、吸口といった金属部品も自身で加工し、きせる全般を販売しています。

### Q.たばこ文化への想いは？

たばこは元々嗜好品です。嗜むという字は、“口・老・旨”で構成されているように、歳を経てたばこの味わいが深くわかるというだけでなく、**喫煙の節度と品位を守って摂取する過程も楽しむ**ということです。当初は外国から伝わり、茶道など日常に溶け込む中で独自に発展し奥ゆかしさを醸し出す日本のたばこ文化。現在の紙巻きたばことは異なる、そんな“粋”なたばこ文化を後世に伝えるべく、今後も精進してまいります。



9代目店主 谷川 清三 様



▲きせる

谷川清次郎  
商店 様 HP ▶



▲吸口部分を加工する様子



Cスクエアバックナンバーはこちらからお読みいただけます！  
[Click!](#)